

学校経営のポイント

児童・生徒へ“慰労と期待”を卒業式講話で

若井 彌一

3月に入り、小・中・高等学校では卒業式の時期を迎えた。3学期制を採用している学校も、2学期制を採用している学校も、3月は共通に卒業式という締めくくりの行事を迎える。

“感動を与え、心に残る講話”の心がけ

平成14年5月1日現在、文部科学省の統計調査によれば、小学校6学年に在籍する児童数121万4,234人（国・公・私立の合計。以下、中学校・高校も同じ）、中学校3年に在籍する生徒数132万6,138人、高等学校3年に在籍する生徒（本科）数129万6,526人であり、中等教育学校前期課程・後期課程、盲・聾・養護学校に在籍している児童・生徒数の今春3月修了予定者を加えると384万人を超える児童・生徒が、それぞれの学舎を巣立つことになる。

「巣立つ」という表現は、雛鳥が巣から飛び立って立ち去るとするのが原義であるが、転じて子どもが親元や学校から実社会に出ていくことの意味でも広く使われている。手厚い保護の状態から、ステップを踏んでより自立した人間（社会人）へと羽ばたいていく様子を形容する言葉として「巣立つ」は、一種のロマンを感じさせる響きをもっている。

この巣立ちの行事にふさわしい、児童・生徒に、それぞれ6年間、3年間等の学びの足跡を振り返らせ、その労をねぎらい、そして次の学びや人生のステップに臨もうとしている若者たちへの希望や期待をこめた、感動を与え、心に残る講話を各学校の校長は心がけていただきたい。

校長だけではない。各学級担任も、それぞれの学級で児童・生徒に別れ（お祝い）の言葉を述べる時間がある。ぜひとも、「卒業式の日、あの一言が…」と、児童・生徒の心に刻まれるような内容のあ

る言葉をプレゼントする心がけを忘れないでいただきたい。

384万人を超える児童・生徒のうち、どれだけの子どもたちが卒業式の校長講話や学級担任の別れ（お祝い）の言葉に感激し、新たな意欲をもって次の学びや勤労の場に進んでいくことになるか、大いに期待したいところである。

ヒーローは少数特定の優秀者のみではない

ところで、卒業式を迎えるにあたって、念押しのようなところではあるが、次のことを要望しておきたい。それは、卒業式等の行事の際に優秀者や功労者などが表彰されることに、その一部の人々だけが式典の主役（ヒーロー）であるような印象を与えないような心配りをしていただきたいということである。

スポーツ競技大会での1～3位入賞者だけが式典で礼讃され、4位に甘んじた者には一言半句も言及しないというのでは心配りが足りない。

光り輝く一部特定の児童・生徒だけが主役ではなく、修了・卒業を迎えるにいたったすべての児童・生徒が、そしてその保護者たちが、「とにかく、ここまで来たんだなあ」と喜び、次へのステップに児童・生徒ともどもに自覚を新たに、そのような機会として卒業式を挙げていただきたい。

むろん、そのような喜びを感じることのできる卒業式を迎えられるのは、何年にも及ぶ充実した学びの日々があつてのことである。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

…本紙は、購読料不要です。配信の中止・FAX番号変更等の場合は、抹消・登録に必要な宛先、新・旧FAX番号、等を必ずご明記くださるようお願いいたします。

好評発売中 学校講話の話し方・つくり方《全4巻》

●新刊ご案内●

予約受付中 3月17日発売！

教育開発研究所刊

★重要答申・通知通達類を全文収録！【監修】菱村 幸彦／B5判 270頁・定価 2625円

『教職研修'03 情報版』3月末まで予約分は送料小社負担急送

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）